

## 香川県支部長川口洋子さんが、先日四国で聖火ランナーを！

<川口さんの紹介>

川口さんは、選手育成に自宅を合宿所にして毎年生徒を預かっておられ、そのうち一人が先日新体操オリンピック出場選手に選ばれました。長年の夢と実践が実現し、大層喜んでおられました。



(17) **地域総合** 2021年(令和3年)4月19日(月曜日)

### 64年大会伴走者の川口洋子さん

## 今度は主役「感激」

さぬき市を走った川口洋子さん(74)は、前回は1964年の東京大会でも聖火リレーを経験。沿道からの声援に手を振って応え「最高の一日だった。この感激は一生忘れられない」と話した。

64年は陸上部に所属する高松中央高2年生。正規ランナーの伴走者に選ばれ、国旗を手に旧白鳥町を駆け抜けた。当時のリレーは現在に比べて走るスピードが格段に速かったといい、「151.5キロほどだったと思うけど本当にきつかった」と懐かしむ。

大学で徒手体操を学んだ後、母校・高松中央高で体操競技の指導者として長年活躍した。地元開催だった1993年の東四国国体では成年女子監督として優勝に導くなど、県の競技力向上に大きく寄与。約6年前、聖火ランナーの大舞台に輪を盛り上げ、ポルト役の副操協会の会長兼聖火ランナーは「主役」としてスポーツにだけにとどまらず、五輪の雰囲気も感じている。「ど大会は絶対に願っていた